



多久の歴史

前多久時代と蒙古襲来

平家の滅亡と鎌倉幕府の成立

治承4年(1180)、源頼政が以仁王(後白河天皇王子)を奉じて平家打倒に挙兵したが宇治で打ち負け敗死した。その後、源頼朝・源義仲が挙兵、様々な戦をおこない、文治元年(1185)長門壇之浦で平家が滅びると、建久3年(1192)後白河法皇の死去ののち、源頼朝は念願の征夷大将軍に任官し、鎌倉幕府の土台が出来上がりました。

この頃の多久には、源頼朝の御家人、津久井宗直が建久2年(1191)、12万石を賜り地頭とし一族郎党300余人を率いて下向し、南多久庄に陣内城を築き、つづいて梶峰城(多久町)を作り多久氏と改姓、「多久太郎宗直」とし、ここを居城として治めました。

また、高野神社を創建、桐野山妙覚寺を再建して民心の安定をはかり、風教(徳をもって人民を良い方へ導くこと)の隆興に尽くしました。



▲梶峰城跡地

蒙古襲来

鎌倉幕府が始まったころ、アジア大陸では蒙古族が蒙古国を建て、わずか半世紀の間に欧亚大陸に大帝国を建設しており、文永5年(1268)成吉思汗の孫、忽必烈は、高麗王を介して国書を日本に送り7回に渡り服従を迫ってきました。

蒙古国は文永11年(1274)10月、9百隻の艦船、兵3万をもって対馬、吉岐を侵攻し、筑前、肥前の海岸に侵攻した。九州勢は、少弐経資を総大将に肥前勢として多久宗行(3代宗直の孫)も参戦、善戦したが次第

に苦戦に陥り、一旦水城まで退却した、その夜、思いがけない暴風が吹き起り艦船は沈没し戦闘継続能力を失い退却した、これを「文永の役」という。

弘安4年(1281)6月、アジア南方の宋を滅して勢いに乗った蒙古国は、4千4百隻の艦船、兵14万の大軍をもって、対馬、吉岐を侵し博多湾に押し寄せてきたが、幕府は再度の襲来に備え石築地(石塁)を築き防備を厳重にしていたことで防戦する日本軍に阻まれ上陸できず、一進一退の戦が続いていたが、7月30日の夜から続いた大暴風雨による自然の威力には勝てず、ほぼ全滅状態で本国に逃れ帰った。この戦を「弘安の役」という。



▲多久太郎宗直の武者姿

弘安の役で多久家は吉岐で戦っているが、多久宗行も「弘安4年7月蒙古襲来之節吉岐大瀬戸において勲功を抽す」との記録が残っている。また、多久宗行の一族相浦宗興について「弘安4年蒙古の博多に冠するや宗興防戦の功あり、恩賞ありて小城郡の※内能職村を賜ふ」とある。(※内能職村とは納所村のことか?)

源頼朝が鎌倉幕府を開いてから141年目に鎌倉幕府は滅亡したのであるが、多久家は初代以降14代、竜造寺氏に滅ぼされるまで342年にわたって多久邑主として支配していました。



多久太郎宗直の墓・延寿寺(前多久家、宗直以下4代供養塔)▲



▲蒙古の襲来「文永の役」「弘安の役」

お知らせ
牛島和廣議員が令和3年12月31日付で辞職されました。

議会広報委員会

委員長 榊島 永二郎

副委員長 鷲崎 義彦

委員 田淵 厚

委員 平間 智治

委員 小川 香月

委員 三郎 正則

委員 小川 三郎

委員 三郎 正則

UD FONT

耳やすぐて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

VEGETABLE
OIL INK

環境に優しい植物油
インキを使用しています。

